

ノイエスだより

ノイエス朝日(朝日印刷工業株式会社)
群馬県前橋市元総社町七三-五
TEL 027-2555-3434
FAX 027-2555-3435
http://www.neues-asahi.jp

新年を迎えて日常の生活に戻りました。

年末年始は、ゆつたりと過ごして心身共に休養をとっているはずですが、一週間ほどのリズムの変化に身体が対応せずに誰もが少し調子をくずしてしまふことが多いようです。気の緩みから風邪をひいたり、身体のあちこちが痛くなったりと・・・ちよつと困った状態になりがちです。そんなダラダラ生活にもサヨナラ。変化の多い今年をどのように過ごしていこうかと手帳にノイエスの一年の展覧会スケジュールを書き込みました。

今年も新たな作家との企画展がいくつか、そして長いおつき合いの作家との個展もあり、グループ展もあり、新作との出会いもあります。

恵まれたことに、作家のアトリエを訪問することもあり、作家がどんな思いで制作をしているのか、その環境と制作に対する姿勢なども窺いうることも出来ます。昨年から今年にかけて県内で実施された展覧会も多く、前橋市内はもちろん高崎、渋川、桐生方面に車を走らせ作家と話し、作品と向き合う機会も多かった日々でした。

個展はもちろん、公募展の支部展、各団体展などに足をはこび作家の作品の変化に心動かされることもあり、心ときめきます。

鑑賞者としては、その作品と向き合った時に微妙に感じられる「変化」に好奇心をそそられます。作家が表現しようとしているテーマや表現方法、構図や色彩やマチエールを受け止める自分。何とも贅沢な時間です。不思議な思いに駆られたり、疑問に感じられることは極力作家に尋ねたりもしますが、その会話も楽しい時間です。

そんな時に、その作家との「縁」という関係性を再度確認している自分があります。三十数年のおつき合いの作家もいますが、ここ一～二年のおつき合いの作家もいます。年数ではない「縁」とはいったい何だろうと・・・。仏教用語での「因縁」(いんねん)とは、結果を生じさせる内的な直接の原因を因(内因)といい、外からそれを助ける間接の原因を縁(外縁)というとし難い解説があります。何か言葉では説明出来ない力によって自分と作家との関係性が築かれていく感覚があり、それはノイエスに来廊される多くの人の関係性についても同じことが言えます。

今年も新たな出会いと、長年の「縁」で結ばれた方たちとの時間を大切に

して、日々健康に過ごしていきたいと思ひます。
変化の多い一年となることと思ひますが、皆様にとりましても良い一年になりますように・・・。

(武藤)

ノイエス朝日(展覧会)のご案内

冬の蚤の市

〈企画〉

会期 一月二十六日(土)～二月三日(日)
午前十時～午後五時(最終日は四時終了)
会場 ノイエス朝日 スペース1・2

日常生活で使える小物からインドのプレスレット、石。琵琶のバチのコレクション。

また、布や不思議なアクセサリーや絵画なども展示販売します。手にとってお楽しみください。

併せて二月九日からの「ふる本市」も同時開催します。

ふる本市

〈企画〉

会期 二月九日(土)～二十四日(日)
午前十時～午後五時(最終日は四時終了)
会場 ノイエス朝日 スペース1・2

恒例になりました「ノイエスふる本市」です。

美術書はもちろん専門書を中心に雑誌なども並びます。

今では、書店でも出合えない本が見つかるかもしれません。

そんな空間で、のんびり本を手にとってコーヒープレイクをお楽しみください。スタッフもお待ちしています。

展覧会の予告

第三回 楢円展

〈企画〉

会期 三月二日(土)～十日(日)
午前十時～午後五時

会場 ノイエス朝日 スペース1・2

出品作家

掛川孝夫・小林 正・河内世紀一
酒井重良・住谷夢幻・藤森カツジ
福島保典・真下京子

フランスのパリに住む画家の塚本実氏から昨年暮れに県立館林美術館に展示されていたお父様の塚本茂氏の作品についてのお便りがありました。その作品についての連絡とお礼内容でしたが、その封筒にパリで開催されていたジャポニズム関連の図録やパンフレット、絵葉書がたくさん入っていました。

オルセー美術館での「青とバラ色時代のピカソ展」、リユクサンブル美術館での「ミュッシャ回顧展」、そしてクストディア財団に於ける「日本の近代木版画展」「生まれ変わる波」一九〇〇～一九六〇展。

中でもオランダのアムステルダムに日本の版画(特に江戸時代の浮世絵の伝統を継ぐ明治時代以降の木版画)を熱心に集めた人がいたそうで、そのコレクションに驚かされたことでした。

北野恒富、川瀬巴水、伊藤深水などのポストカードの美しさには私自身も驚き、それをオランダのコレクターが集めていたことに再度驚きました。

先日、テレビ番組で見たアメリカにある日本美術のコレクションにも驚かされましたが、なかなかそれらの作品を見ることが出来ないという残念な思いもありました。

塚本実氏の丁寧なお便りと、封筒の中からはパリの風も一緒に運んでくれたような新鮮な作家たちの作品に触れることが出来ました。

そんな折、アーツ前橋から二月二日から開催される「闇に刻む光 アジア木版画運動」の案内が届きました。

アジアの現代美術については時々テレビなどでも特集を組んで放映されていますが、アジアの木版画は珍しい展覧会だと思ひ、是非拝見しようと思ひています。

パンフレットは、ノイエスにも置いてありますので興味のある方は是非ご覧になってください。

詳細については直接、アーツ前橋にお問合せください。

アーツ前橋 電話 027-230-1144

(水曜日休館)

* 展覧会は、三月二十四日(日)まで

ノイエス朝日は、展覧会会期中以外は休廊しています。

お問合せにつきましては展覧会会期中にお願いいたします。